

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：特定非営利法人 環境・福祉事業評価センター	所在地： 長野県長野市南高田2-5-16
評価実施期間：令和7年6月2日から令和8年2月20日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050301 B25006 B18055	

2 福祉サービス事業者情報（令和7年10月現在）

事業所名： （施設名）長野市 青木島保育園	種別：保育所	
代表者氏名：市長 荻原 健司 （管理者氏名）園長 西澤 裕子	定員（利用人数）：170名（124名）	
設置主体：長野市 経営主体：長野市	開設（指定）年月日： 昭和27年 4月 1日	
所在地：〒381-2205 長野県長野市青木島大塚1361		
電話番号：026-285-2551	FAX番号：026-285-2551	
電子メールアドレス：aokijima hoiku@city.nagano.lg.jp		
ホームページアドレス：http://www.city.nagano.nagano.jp		
職員数	常勤職員： 27名 非常勤職員 19名	
専門職員	（専門職の名称） 名 保育士 20名 調理員 6名	
	看護師 1名	
	調理員 5名	
施設・設備 の概要	（居室数） 乳児室 1室 ほふく室 2室 保育室 5室 遊戯室 1室 調理室 1室 事務所 1室 便所 6室 屋外遊技場（園庭）1354.15m ³	（設備等） 鉄棒・滑り台・六角はん登棒

3 理念・基本方針

<p>【保育理念】 ○子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。 ・児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。 ・子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。</p> <p>【基本方針】 ○安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。 ○専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。 ○保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。</p>

○家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
○保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

【長野市青木島保育園の保育目標】

あお・・・青い空の下、のびのびと遊ぶ子ども
き・・・気持ちの優しい子ども
じ・・・自分で考えて行動できる子ども
ま・・・毎日、おいしく給食を食べる子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

【青木島保育園の概要】

長野市の犀川に架かる丹波島橋南側、閑静な住宅街が広がる青木島地区に立地しています。入所家庭の多くは核家族であり、子育てと就労の両立を支援する役割を担っています。道を挟んで青木島小学校が隣接しており、卒園児の多くが同校へ入学しています。

定員170名の大規模保育園であり、現在は0歳児6名、1歳児15名、2歳児23名、3歳児30名、4歳児26名、5歳児24名の計124名が利用しています。クラス編成は、いちご組(0・1歳児)、ばなな組(1・2歳児)、りんご組(2歳児)、ほし組・はな組(3歳児)、つき組(4歳児)、にじ組(5歳児)となっています。また、長時間にわたる保育や一時預かりを提供しています。

職員配置においては、看護師1名が常勤しており、日々の健康管理や事故防止、怪我や病気、アレルギーや感染症予防へ迅速に対応しています。

青木島小学校区の子ども・子育て環境の充実を目指して「青木島こども未来プラン」が策定され、老朽化している青木島保育園の対応策を検討しています。

【青木島保育園の特徴的な取り組み】

園外保育の充実

本年度(令和7年)に「信州やまほいく(信州型自然保育)」の認定更新を行いました。住宅街に立地しながら、近くの神社や田んぼへの散歩をはじめ、畑での芋づくり、プランターや飼育箱での観察などを通じて、自然と触れ合う機会を多く取り入れています。また、毎日の園庭での運動あそびや各種運動プログラムの導入により、園児の運動機能の強化にも力を入れています。

地域の子育て支援

未就園児と保護者を対象とした園開放「おひさま広場」を開催し、保護者同士の交流の場の提供や子育てに関する相談、育児に関するセミナー等を実施しています。また、保護者の就労や疾病、保護者の育児に伴う心理的・肉体的解消を目的とした「一時預かり」事業を実施し、地域の子育て支援に努めています。

個別に配慮が必要な子の支援

特別支援教育・保育コーディネーターを1名配置し、個別に配慮が必要な子の支援をクラス担当者等と協働して行っています。また、今年度は青木島保育園への希望親子はいませんでしたが、入園とまらない障害児を対象とした園児との交流を促進する「親子交流体験」事業も支援事業として実施しています。

異年齢交流等

異年齢児との交流を積極的に取り入れ、共に遊び、食事を楽しむ間を大切にしてい

ます。また、毎年新規採用職員を対象とした公開保育を実施しており、未満児クラス
の環境構成や職員間の連携を深める機会としています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	3 回（令和2年度）
---------------	------------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

特に良いと思う点

異年齢保育の充実

1・2歳児は混合クラスにより異年齢保育を行っています。日常的に異年齢児との交流を設け、共に遊び、食事を楽しむ時間を大切にしています。コロナを経て学年別の活動が強まった時期もありましたが、現在は「学年やクラスを超えた活動」について課題が出され、異年齢交流を軸とした活動を再開・計画しています。実践後はエピソードの考察や子どもの変化を職員間で共有し、関わりの質を高めるための改善に継続して取り組んでいます。さつま芋の収穫や年長児とのサッカー遊び、砂山でのトンネル遊び等を通じ、何気ない遊びの場面で異年齢との関わりが見られます。異年齢児との関わりは、年上児には憧れの気持ちを持ち、年下児には思いやりの気持ちを持って接する貴重な体験となります。年齢の枠を超えて交流することで交友関係が広がり、遊びの楽しさやルールを体験し、さまざまな遊びを身につけられるよう工夫しています。積極的に異年齢保育に取り組んでいる点は、特に評価すべき長所といえます。

インクルーシブな保育の充実

長野市の「第三期長野市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、障がい児等の受け入れ体制の強化と支援を掲げています。青木島保育園では、特に障がいなど配慮が必要な子どもへの支援を整え、受け入れを行っています。個別支援計画が作成され職員間で支援体制を共有しており、児童発達支援センター等の専門機関と相談できる体制も整っています。また、障がい児については、加配保育士がおり、個別計画に基づき保育が行われています。外国籍の子どもについても、文化的背景や一人ひとりのアイデンティティを尊重した保育を行っています。こうした多様性を認め合う「インクルーシブ保育」を幼いころから経験することで、他者を思いやる心を育むよう努力しています。障がい等の有無に関わらず、共に育ち合うインクルーシブ保育を実践している点は特に良い点として評価できます。

老朽化した厳しい保育環境でのがんばり

青木島保育園は、昭和59年3月に建築されてから40年以上経過し、長野市では古い園舎です。人口増加に伴う増築を経て、現在は玄関の段差、夏の室温管理、トイレ等の老朽化といった課題に対し、日々工夫を凝らしながら運営しています。保護者駐車場や床、建具の状態など、決して十分とは言えない設備環境にありながら、園全体で園児の安全・安心を最優先にがんばっています。また、近隣への騒音問題について細心の注意を払い、未満児の送迎時には職員が玄関で対応するなど、地域との調和と丁寧な対話を重視しています。このような厳しい環境の中、長野市の大規模保育園として、多様な保育を行い、一生懸命に職員ががんばっている姿は、良い点として評価できます。

特に改善する必要があると思う点

カスタマーハラスメントに対する対応

2025年6月4日に、カスハラ対策を事業主に義務付ける労働政策総合推進法（労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律）などの改正法が国会で可決されました。厚生労働省の「カスタマーハラスメント対策企業マニュアル」によると、カスハラとは「顧客等からのクレーム・言動のうち、当該クレーム・言動の要求の内容の妥当性に照らして、当該要求を実現するための手段・態様が社会通念上不相当なものであって、当該手段・態様により、労働者の就業環境が害されるもの」としています。これらは単なるクレームとは異なり、職員に精神的・身体的な負担を与え、業務の妨げとなるため、保育園でも防止策や対応体制の整備が求められています。

適切なカスハラ対策がされていないと、職員に精神的・身体的な負担を与え、離職などに繋がります。また、社会的信用の低下や炎上リスクも考えられます。SNS等での情報拡散により、対応の不備が広く知られ

ることで保育園のイメージが損なわれ、信頼喪失にもつながる恐れがあります。こうしたリスクを回避し、職員の安全・安心な労働環境を守るためにもカスハラ対策を講じる必要があります。

カスハラに対して保育園の基本方針や基本姿勢を明確にしておくことが重要です。保育園の立場を明文化し、内外に発信することで、組織としての一貫した対応が可能になります。また、明確なマニュアルを作成し、研修では、ハラスメント行為と通常のクレームとの違いを明確にし、ケーススタディや過去の実例・経験を共有することで、実践的かつ効果的な学びが得られます。更に、パワーハラスメント等と併せ教育・研修を実施することで、より深い理解と対応力の向上ができることを期待します。

青木島保育園の環境の整備状況の情報の周知

現在、青木島小学校区の子ども・子育て環境の充実を目指して「青木島こども未来プラン」がまとめられています。その中で老朽化した保育園舎の移転新築について検討し、関係者との調整を図りながら園舎の移転新築をできるだけ近隣に移転できるよう、候補地について用地交渉を進めるとしています。そして「青木島こども未来プラン」のスケジュールも目安が示されています。利用者アンケートでも、保育園の移転計画の進捗状況についての保護者の関心が高い結果となっています。長野市の様々な部署との関係がありますが、保育・幼稚園課と調整のうえ、保護者に保育園の移転計画の進捗状況について周知することを期待します。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添1）

内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3 - 1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

（令和8年1月15日記載）

今年度福祉サービス第三者評価を受審することで年度当初から園の運営や様々なマニュアルについて学ぶことが多かったです。

また、本園の良いと思われる点や課題についての認識を明確にすることができました。

総評については「異年齢保育の充実の工夫や取り組みができて」「インクルーシブな保育の充実については外国籍のこどもについて習慣や一人ひとりの個性を尊重した保育が行われている」「老朽化した厳しい保育環境の中で長野市の大規模保育園としての頑張り」など良い点として評価していただきました。

今後もこれらに対しては引き続きこどもや保護者の最善の利益になるよう職員一丸となり保育の質の向上を目指していきたいと思えます。

改善する必要がある点として「カスタマーハラスメントに対する対応」と「青木島保育園の環境の整備状況の情報の周知」については本園だけでの改善は難しいため担当課と一緒に課題の解決を図っていききたいと思えます。

保護者の皆様には、お忙しいところアンケートにご協力いただいたことに感謝すると共に、皆様から頂いたご意見ご要望につきましては今後の運営に生かしていきたいと思えます。

評価委員の皆様には、ご指導ご助言をいただきましたことに感謝申し上げます。